
ファンタシースターポータブル2i~異世界の5人~

サイクロン&ハリケーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ファンタジースター・ポータブル2～異世界の5人～

【Zコード】

N4736Z

【作者名】

サイクロン&ハリケーン

【あらすじ】

それは遠い星のお話。軍事会社リトルウイングにルーク・フィレンという青年がいた。彼は亜空間事件を解決した英雄である。

欠片事件から1年数ヶ月がたつたある日、何やら怪しい5人がいる会話をしている。彼等は何者なのか、まだするのは先の事である。

プロローグ・謎の5人（前書き）

初投稿です。自信がないですが、どうぞ御覧ください（ちなみに主人公はまだ出ません）。

プロローグ・謎の5人

? 「 」は、 だ? 」

? 2 「 どちら成功したみたいだね。 」

? 3 「 ああ、 そのようだな。 」

? 4 「 失敗するかと思ったが・・・、 何もなくて良かつた。 」

? 4 「 失敗するわけないッスよ。 僕が造ったんッスよ 」

? 5 「 その様なしゃべり方だから、 そう言われるんだ。 」

? 3 「 でも、 彼の腕はたしかだよ? 」

? 4 「 良いこと言つてくれるじゃないッスか。 」

? 5 「 そんなことより、 本当に大丈夫なのか? 」

? 5 「 ああ、 大丈夫だ。 準備はできてる。 僕達の目的を達成させよう。 」

? 5 「 ふつふつふ、 そうか。 」

? 2 「 時間もないし、 もう行こうぜ。 」

?・3 「 そりだね。」

?・5 「 まてよ、先々行くのは良くない、そりだなまぢは・・・。」

プロローグ・謎の5人（後書き）

うーん、とりあえずここまでですね。誤字、脱字がありましたら、教えてください。

第一話・依頼 1（前書き）

続けて投稿です。前回は会話だけだった。でも後悔はしてないような
あるような。
まあ前回は気にせず御覧ください。

「マイルーム」

こここの部屋に1人の青年がいた。彼の名はルーク・フィレン、亜空間事件を解決した英雄である。だが、今は彼はベッドで寝ている。病氣出もなく怪我したわけではない。彼に取つて久しぶりの休日になる……はずだった。

コンコン

「はい。」

「ルーク? いる?」

「(うるさいのが来たな) ああ

扉が開き姿を見せたのはエミリアだった。

「何よ、その返事は?」

「別に(言つたら殺される) で、何のようだ?」

「うーん、実はさ。あんたにお願いしたい事があるの」

「なんだ?」

「実はナギサに声をかけただけど、依頼が入つていけなくなつた

んだ。」

「んで？」

「だから、あんたに来てもらいたいんだ」

「ビーハー?」

「依頼」

「依頼? ··· 悪いが、今日は俺は休···」

「お父さんに声を掛けたら、ルークと行けと言われた」

「おいおい···」

「ルーク···お願い」

少し考えて、ため息を付き

「わかったよ。付いて行けばいいんだろ?」

と答えるミリアが笑顔で

「ありがとう」と答えた。

「やれやれ」と言しながらベッドから出でる。

「依頼内容は?」とミコアに聞く。

「うーん、何かパルムで不審な5人を見たんだって。」

「その5人を何者か調べろと。」

「あら、あの通つ

「あらあわはなはなは。せつかべの木口なに仕事するなにて」

「ぶつぶつ言わなこの。せんがひ、部屋を出た。

「せれせれ」延きながら、

第一話・依頼 1（後書き）

やつぱり小説は難しいですね。でも頑張ります。
うん、頑張る

第一話・依頼2（前書き）

パツと浮かんだら書いていますので、内容は少し心配です。

ルーク「やれやれ、」

第一話・依頼2

「パルム草原」

依頼を受けたエミコアと無理やり依頼を受けさせられたルークがいた。

「エミリア? ここに依頼にあつた不審な5人を見た場所か?」

「うん。 そうだけど、誰もいないね?」

「だが、油断はするなよ。 いきなり襲つて来るときもあるからな。」

つとエミコアに注意を促した。

「わかった」 つと返事をするエミリア。

「とりあえず、辺りに誰かいいか、 捜索するか。」

「そうだね、まずは人を探さな・・・」

「――? エミリア! ! 伏せる! ! 」 と叫ぶルーク。

「え?」

「ちつ」とエミコアを無理やり右に押す。

「痛つ」と地面に尻餅をついたエミコアが声を出す。

「へそ、どにからだ」辺りを見渡すルーク。つとそじー。

「あ～あ、外しちゃった。結構自信あつたんだけどなあ～。」つと声がした。

「誰だ……」つと声がした方向に声を出した。

「普通、自分から名乗るものでしょう～？礼儀をしらないの～？」

「なに？」

「いたたたつ」お尻を擦りながら立ち上がるエミコア。

「大丈夫か。エミコア？」

「人を押し倒しといて、その台詞言つかな？まあ大丈夫だけじ。」

「わりい、その方法しかなかつたから。」

「いやいや、その他にも方法があるしょう～？」

などの会話をしていると、

「何？漫才でもやつてるの～～？あんまり面白くないよ～～

「姿を見せないお前に言われたくない。つていうか漫才なんてしていいない」と声がする方向に喋る。がしかし、

「どじ見て喋つてゐの～、後ろだよ～。君の後ろ～」

「「……？」」と振り向く2人。

「こつからそこの、」つと、質問をする。

「『お前に言われたくない』って辺りかなあ～～？」

「「うう、何かしゃべり方が腹が立つ。」つとHILYRIAが言つ。

「あははは、いい慣れてるから、痛くも痒くもないよ～～。どう～？余計に腹が立つたでしょ～～？」

「「・・・・」」

「ま、いいや。その事を言つたために、出てきたんじゃないからね～。実はさ～、君達にお願いがあるんだ～」

「誰がお前のお願いを聞くもんか。」つと、答えるルーク。

「ほんと。襲撃しといてなによ、それ？」HILYRIAも答える。

「困っている人を助ける仕事なんでしょう～？助けてよ～。子供だよ？僕ちん」

「子供も大人も関係ない。襲撃した理由を聞き出してやる。つていふか自分からいうか？『子供だよ？』つて「つと言つながら、シッ プウジンライを構える。

「子供だから子供って言つただけだよ～。それよりなに～？子供に

武器使うの～？大人げないなよ～？ま、武器を使っても君は勝てないけどね～

「と、言いながら、ゼロセイバーを構える。

「H//リアーー下がつてろーーー。」

「でも、ルークーー！」

「パートナーの事聞くもんだよ～。」

「と笑いながら囁く。

「ううう、あんたに聞いて・・・。」

「H//リア。頼む・・・」と真剣な顔でH//コアに囁く。H//

リアも觀念したのか、

「わかった。」と答えた。

「さてと、準備はいいか？」と子供に囁く。

「僕ちゃんは、いつでもいいよ～。あ、そいつ、僕ちゃんの名前はミケ。ミケ・ラ・オーディーー」

そしてミケはルークに飛び掛かる。

第一話・依頼2（後書き）

とつあえず、一ひとまで。

ルーク「やつぱり、内容が」

誤字、脱字がありましたら教えてください。

ルーク「無視するなよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4736z/>

ファンタシースターポータブル2i～異世界の5人～

2011年12月16日22時48分発行